

■『絆プログラム』とは

「絆プログラム」とは、受講者自ら絵本を選び、その絵本を声に出して読み、それをCDに録音して家族や大切な人に送り届けるプログラムです。グループ内で自ら選んだ絵本を読み合い感想を述べ合うことでグループ内に心の交流が生まれ、自然とお互いを励まし合い肯定するうちに、「自分も頑張ろう」といった前向きな意欲が高まります。

本プログラムは、英国の刑務所で実施されている“Storybook Dads<パパと童話の絵本>”というプログラムをヒントに、2010年、刑事施設である美祿社会復帰促進センターで生まれました。“Storybook Dads”プログラムは、録音技術の習得という職業訓練を兼ねたプログラムですが、本プログラムは、録音を完成させる過程である、受刑者同士の絵本の読み合いに重きを置いています。

人が他者に対する思いやりを持ち、愛を持って他者に接することの大切さを実感するためには、自分が深く受け入れられ、自己肯定感を高められる経験が不可欠です。特に刑事施設の入所者には、愛し愛される経験に乏しい者が多いため、「家族や大事な人のために1冊の絵本を選び、その絵本を心をこめて読む」という取り組みやすい課題の中で自分の中に眠っているさまざまな感情を掘り起こしていくことが、有効です。「愛することに自分の声やことばを用いる」といプロセスを相互に分ち合っていく「読み合い」のプロセスは、各自の更生に向かう道筋を拓いてくれるものとなるでしょう。

刑事施設にとどまらず、離れた家族・大切な人へ向けて絵本を読む、というシチュエーションであれば、どのような方にも適用可能なプログラムです。絵本の持つ力、可能性をプログラムを通じて理解いただけることを願います。

